

平成 24 年 8 月 8 日
(社) 日本医師会

予防接種法の改正に対する日本医師会の見解 ～7ワクチンすべての定期接種化に向けて～

日本医師会は、かねてよりわが国のワクチン政策の遅れを懸念し、国民の生命を守るため、より多くのワクチンの定期接種化を目指し、法改正の早期実現を訴えてきた。

その一環として、平成 22 年度には署名活動を中心とした「予防接種キャンペーン」を展開した。このキャンペーンにより約 270 万人の方々に署名いただき、その結果をもって厚生労働大臣等に早期の定期接種化を要望した。

これらの活動等により、平成 22 年度補正予算事業として「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」が実施され、子宮頸がん、Hib、小児用肺炎球菌ワクチンの公費による接種が可能となったが、これらはいくまでも時限的な措置に過ぎない。

このような状況のなか、本年 5 月 23 日に開催された厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会では、これまでの審議の結果を「第二次提言」としてとりまとめ、本会から参画している委員の主張も踏まえ、財源の確保、そして医学的・科学的観点から 7 つのワクチン（子宮頸がん予防、H i b、小児用肺炎球菌、おたふくかぜ、水痘、成人用肺炎球菌、B 型肝炎）を、広く接種促進していくことが明示された。

一方、上記部会においては、民主党厚生労働部門会議 医療・介護ワーキングチーム予防接種法小委員会による書面（5 月 16 日付）が配布され、その中には財源の問題から定期接種化に当たっては、補正事業で公費接種が先行実施されている 3 ワクチンをまず優先する方向性が示された。

このような方向性のまま定期接種化が進めば、おたふくかぜ（ムンプス）や水痘・帯状疱疹による重篤な合併症や後遺症の罹患者の発生予防に重大な支障を来たすこととなる。

日本医師会、日本小児科学会、日本小児科医会の三団体は、以前からこのような状況を懸念し、おたふくかぜ、水痘・帯状疱疹による重症例や後遺症例の実態を把握し、その結果をもってあらためておたふくかぜや水痘ワクチンを含め、7 ワクチンの定期接種化を強く求めることが必要と判断した。

以上の経過から、本年3月、三団体は「ムンプス・水痘の重症症例・重篤合併症の調査」を全国の病院に対して実施した。

その結果概要のみを別添資料に示すが、ムンプス、水痘ともに、それぞれ3,700箇所前後の関連診療科から回答を集計した結果、重症化して入院した症例がムンプスで4,808人、水痘で3,407人に上るなど相当数の重症例があり、また一定の重篤後遺症例の発生も明らかとなった。

今回の調査は、①24時間以上の入院症例を重症例としたため病院のみを対象としたこと、②対象期間を過去3年間のデータとしたため回答率が18%強程度であったこと等を考慮すれば、実際には今回得られた数値以上の重症例、重篤後遺症例等が発生していたことは確実である。

換言すれば、ムンプス、水痘ワクチンの定期接種化が実現すれば、少なくとも年間2,500名以上の重症例等の発生を未然に防ぐことができるということである。

予防接種で防ぐことができる病気（VPD：Vaccine Preventable Diseases）から地域住民の生命・健康を守るためには、地域間や経済的格差なく、ワクチン接種が受けられることが必要であり、現状とりうる最大限の施策は、前述の7ワクチンすべてを定期接種化することに他ならない。

国家の最大の財産たる国民の生命・健康を守ることは、国の責務であり、そのための財源的裏づけを担保することも国の使命である。

日本医師会は今回の調査結果を受け、あらためて先進諸国とわが国の間のワクチンギャップの解消に向け、政府等関係方面に強く働きかけていく所存である。

ムンプス・水痘の重症症例・重篤合併症の調査について

【基本情報】

1. 調査の対象

全国の小児科、内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、皮膚泌尿器科、産科、婦人科、産婦人科を標榜する病院の各診療科
(19,921箇所)

2. 調査対象期間

平成21年1月1日～平成23年12月31日(3年間)

3. 回答数(回答率):

- ムンプスの重症(入院)症例調査:3,765箇所(18.9%)
- 水痘の重症(入院)症例調査:3,666箇所(18.4%)
- ムンプス・水痘の重篤後遺症例・死亡例調査:3,724箇所
(18.7%)

【結果概要】

(1)ムンプスについて

- ムンプス感染により24時間以上入院を必要とした患者⇒4,808人
- ムンプス感染による重篤後遺症例⇒78名(小児55名、成人23名)
- ムンプスによる死亡⇒1名(基礎疾患のない小児)

(2)水痘・带状疱疹について

- 水痘感染により24時間以上入院を必要とした患者⇒3,407人
- 水痘感染による重篤後遺症例⇒13名(小児5名、成人8名)
- 水痘・带状疱疹による死亡⇒6名(小児1名、成人5名)

■ムンプスの重篤後遺症例(78名)の内訳

聴力低下	髄膜炎・ 脳炎・脳症	睾丸炎	その他
61	11	3	3

■水痘の重篤後遺症例(13名)の内訳

脳炎・脳症	その他
9	4